

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03 3875 3351 FAX 03-3875-6796  
発行人 山崎 哲  
編集長 仲井 真裕  
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう  
願いに生きる人となる



せいりゅう  
青淵文庫〈渋沢資料館〉(北区)

## 西徳寺の予定

### 8月

3日(土) 午後2時 総代会  
13日(火)~16日(金) 盂蘭盆会

14日(土) 午後5時半 同行会「和讃に学ぶ」  
法話:仲井 真裕  
15日(日) 午後3時 燈虹塾セミナー  
19日(木)~25日(水) 秋季彼岸会  
23日(月) 秋季永代経法要

### 9月

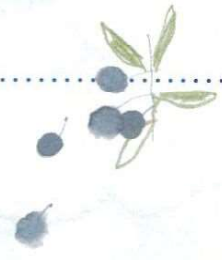
3日(火) 午後2時 評議員会役員会  
7日(土) 午後2時 定例間法会  
8日(日) 午後2時半 城東ブロック会間法会  
場所:未定  
11日(水) 午後1時半 婦人会間法会

※予定は変更することがあります。  
詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言は次のページ

## 8月の山門の言葉

### 私は未来を疑う 仏は未来から私を願う



次女(四才)がオテンバである。元気があって良いのだが、家でも外でも走り回り、飛び回り、時々怪我をする。大きな怪我をしないよう、「危ないから止めなさい」とよく口にする。子どものことを思っただけで叱っているが、何度も繰り返して注意していると、好奇心を制限し未来を狭くしていないかと考えてしまう。

個人主義が当たり前となり、さらに刹那主義になりつつある今、教育といいながら、年々制約が厳しくなっているように感じる。また「次の代に負担をかけたくない」と、お墓や仏壇の相談をして来られる方もいる。

不安であるがゆえに、未来を信じられず、疑わざるを得ない。それが私たちにとっての未来なのだ。

未来について『涅槃經』には、「仏性未来」とあり、大谷派の曾我量深師は「純粹未来」と説かれる。仏性とは種、可能性のことであり、純粹未来とは、私たちの条件や理想が雑ざることのない、永遠に未来として今にはたらく未来である。

反対に私たちは未来を今において定めようとし、また未来が思い通りになることを神仏に要求する。しかし、「現実には思い通りにならない」。こんなことは誰に教えられなくても皆知っているだろう。自分で未来を狭めるところに、私たちの迷いの元があるのだ。しかし人類は、未来を思い通りにする為に進歩発展してきた。ここに大きな矛盾があるのだ。与えられた今を私物化し、今の延長線として未来を定め、未来をも私物化しようとするが、時間ほど思い通りにならないものはない。その不安に蓋をするように、夢や希望を掲げる。

そうではない。今を生きる私たちは、個人ではなく人類の歴史の一端を荷負い、過去から今をいただき、純粹な未来から今を生きる力を賜るのだ。

(仲井真裕 記)

顧問のカレンダーに聞く

# 私たちの人生の争いは

# いつも

# 善と善との争いだ

人類の歴史は戦争の歴史である。領土を争う人間同士の殺し合い。根っこに善を旗頭とする人間同士の衝突である。善と悪ではない。善と善は己の正しさを主張するため妥協はあり得ない。

善は人間の根本にある煩惱である。煩惱は自我である。他人に譲れない正義感。他人の正義感と違う正義感、なかなか厄介な自我の世界、それが争いの根っこになっているのではないか。



The struggle in life is always between one's sense of good and that of others.

# うばだいしゃ ~共悩共歩~ テーマ「時代」

優婆提舎(うばだいしゃ)論議の意。  
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。  
(例:浄土論=無量寿経優婆提舎願生偈)

## 【目課は一万歩】

今回は城北ブロック会の会長を十年間勤められ、今年六月に相談役に就任されました中条啓助さんにお話をうかがいます。

## ◇商店の長男として生まれ

私は神田の生まれで、家が洋服の付属品を扱っている商店を営んでいました。オーダーメイドのスーツや紳士服を仕立てるテーラーさんが、裏地とかポケットの袋布とかを買いに来る店だったんです。スーツの付属品は種類が多くて五百種類ぐらいあるんですよ。戦前に父親が始めて、私は二代目でした。呉服は日本橋に多くて、神田には当時、洋服関係が多かったです。今では既製品の質が高くなってきて、うちも閉めたけど、同業の方は少なくなりましたね。

## ◇戦時中

戦前から店を始めたんですけど、戦中は物資がなくて、当時は開店休業だったそうです。戦争の空襲は神田の一角は焼け残って、私の家も焼夷弾を逃れました。

うちは姉が二人、妹が二人、弟が三

人の八人兄弟でした。戦時中、私は中に入る前の十二、三才でした。母親が千葉の酒々井町出身で、家の女性はみんな母親の実家へ、私は学童疎開で埼玉に行きました。

親が恋しくて帰っちゃう子もいたけど、私は友達と近くのお寺の境内や川で遊んでいました。戦後、東京に帰ってきた時に新制中学校ができて、私はその一期生なんです。

## ◇跡継ぎ

我々の時代、跡取りは長男と決まっていた。私も抵抗はなくて、物心ついた頃から跡を継ぐと思っていました。ですから高校では商業の、そろばんとか簿記とかを覚えちゃった。ですからお客さんが来て、予算とかを聞いたら暗算で計算できちゃうんです。

高校を出て三年間は、日本橋にある問屋さんへ丁稚奉公に行きました。一年間はずっと地方発送の荷造りをしていました。次は配達で地図を覚えて、それから営業に回されました。薬

売りたいに「これが足りないから足しておきますね」って、慣れてくるとね。親が取引してる問屋さんだったんで、大事に教えてもらいました。

## ◇目課は散歩

昭和十年三月生まれで、来年で九十歳になります。最近では家内に物忘れが多いと怒られるんですけど、日課の散歩は続けています。一日に七千歩か一万歩は歩きます。たくさん歩くのご飯も美味しく、夜もぐっすり眠れますね。家内とは結婚してもうすぐ六十年、昔は仕事も手伝ってくれて、今では感謝しています。

(聞き手 仲井真裕)



中条さんと聞き手

## ランドマーク

せいせん ばんこうろ  
**青淵文庫・晩香廬**  
**〈渋沢記念館〉(北区)**



ばんこうろ  
晩香廬

先月7月3日、20年ぶりに新紙幣が発行されました。その一万円札に描かれた渋沢栄一を訪ねて、北区王子、飛鳥山公園の中にある渋沢資料館に伺いました。

渋沢栄一は明治から昭和初期にかけて活躍した実業家で、生涯約500の企業の設立や育成に関わりました。企業の目的が利潤の追求であっても、その根底には道徳が必要で公益を第一に考えるべきだという「道徳経済合一説」を説き、「近代日本経済の父」・「日本資本主義の父」と呼ばれています。

表紙の青淵文庫は栄一の傘寿と貴族の階級、子爵への昇進祝いとして贈呈された小図書館で、大正14年に竣工しました。(国指定重要文化財)

晩香廬は、栄一の喜寿を記念して清水組(現・清水建設)より贈呈された洋風茶室で、大正7年に竣工しました。(国指定重要文化財)

## 燈虹塾のご報告

燈虹塾とは約400年に及ぶ江戸吉原の文化を改めて調査し、理解し、保存し、愛で、普及することを目的として、台東区の支援のもと平成30年に発足しました。

これまでに様々な分野の研究をされている方にお話を伺ったり、史料を基に実際に江戸吉原の街を散策して参りました。

そんな中、東京藝術大学らが主催で今年の3月から5月にかけて東京藝術大学にて「大吉原展」という名のもと、主に浮世絵や絵画作品を基に展覧会が開かれ、大きな話題となりました。

それを受けて燈虹塾の6月セミナーは、展覧会に携わった当塾塾頭の日比谷孟俊氏と、理事であり、東京藝大卒業生でもある望月太左衛氏にお話を伺いました。

東京藝大は西洋音楽・美術に重点を置いていましたが、その大学で当展覧会が開催されたことに望月さんは感慨深いと感想を話されていました。

つづけて7月20日は望月太左衛社中のもと「和楽器体験」が開催されました。



6月セミナーの様子

「三味線を見てギター?と聞かれた」という望月さんからの挨拶。少しでも和楽器や邦楽を身近に感じてもらいたい、という願いのもと、鼓・太鼓・琴・三味線など実に様々な楽器に参加者は大興奮!音を聞いて踊り出す子も現れたり、とても楽しい時間でありました。(事務局・高橋 記)



鼓にチャレンジ!

## 御親修 開基400年・本堂建立100年記念法要

令和6年11月2日(土)、3日(日)西徳寺報恩講を勤修いたします。併せまして記念法要をお勤めいたします。詳細は改めまして本誌にてお知らせいたします。大勢のご参詣をお待ちしております。

※法要へのご参詣申し込みはお電話にて受け付けております。

また記念法要では帰敬式を執り行います。受式希望の方は下記をご参照ください。

### 帰敬式(令和6年11月3日(日)午後)

冥加金	法名	20歳以上	20,000円以上
		20歳未満	10,000円以上
		小学生以下	5,000円以上
	院号法名	希望	190,000円以上
	院号	希望(すでに法名をお持ちの方)	170,000円以上

### ●募集締切：令和6年9月30日(月)●

※法名とは「釋〇〇」、院号とは「〇〇院」、院号法名とは「〇〇院釋〇〇」のことです。

受式を希望される方、ご質問のある方は西徳寺寺務所(03-3875-3351)までご連絡ください。

受式を希望される方には、後日詳細を書面にてお送りします。



## 西徳寺本堂の歩みと現状

先般、「本堂屋根総葺き替え」及び「耐震補強工事」の概算見積が清水建設様より出されました。現時点で6億円程度となる見込みです。

着工日などは未定ではありますが、工期は約1年半となり、その間は本堂が使用できないため、本館1階の星月の間(待合室)にて法要をさせて頂くこととなります。

また足場や柱補強にともない、本堂裏の墓地、本堂下にある室内墓地への墓参が出来なくなる箇所がでる見込みです。その際は改めて各施主様にご連絡させて頂きます。

大事業となりますが、皆様のお力添えを賜れば幸いです。

西徳寺住職 山崎 哲



「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。



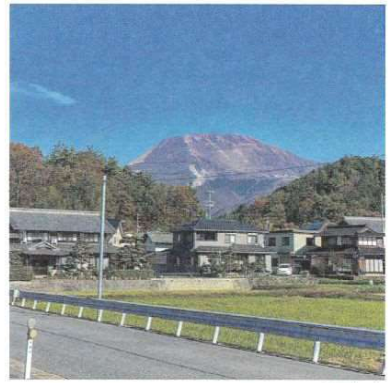
## 坊さんのツブヤッター



@イチー

滋賀県から東京へ来て20年。ご門徒さんとお話していると、「関西ご出身ですか?」と聞かれることがある。すっかり標準語になっているかと思いきや、イントネーションだけは変わらないようだ。

#滋賀県 #関西弁 #イントネーション



伊吹山

## えこお志お礼

大阪府 光明寺様

世田谷区 塚本 和子様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

## 内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

7月のお盆は、新盆の方を始めとしたご門徒のお宅に、お参りに伺わせていただきました。初めて伺うお宅もありましたが、温かくお迎えいただき大変有難かったです。

何度か伺っているお宅では、話に花が咲きすぎて、気が付けば長居してしまったお宅もありました。寺務所ではなかなかゆっくり話ができませんが、お宅に伺うと気軽に話をすることができ、様々なことを教えていただけます。

お寺とご門徒との関係は一般社会とは違い、肩書を外したところでお話ができると感じています。共通項は、日々色々なことに迷い悩みながら生きていることでしょう。衣を着ているからこそある関係を、大事にしていきたいです。

(編集長 仲井 真裕 記)



渋沢栄一像

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)

🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座  
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook